

# 新社長インタビュー



TTS 高橋 佳嗣 社長

たころには、こんろはな  
くなるのではないかなど  
とささやかれたが、さほど  
影響は出でていない。火  
が出ていると、温めてい  
ることが一目でわかるか  
ら落ち着くという」

「親会社が変わった  
ことで変化はありますか。  
全部が伸びていくような  
貿易システムを作り上げ

今年4月、東京たばこ商事の喫煙具、カセットこんろ、ボンベなどの輸入販売事業を譲り受けた韓国の元晶製罐(ワンジョンセイカン)が設立したTTS。営業部門および商品開発、品質管理部門はそのまま東京たばこ商事の担当社員が転籍し、ブランド、体制を含めてこれまで通りで運営している。そ

の初代社長に就任した高橋佳嗣社長に話を聞いた。「08年は、暖冬にも関わらず内食の影響で伸び動きについては、長、過去最高の販売本数を記録した。不況の影響

により、一般家庭では外食を控え、比較的経済的な鍋料理をする回数が増えたことが一因ではないかと思う」

「一時期、業界が伸び悩んでいると言われていましたが、

「確かにIHが出始め

あるウルサン大学に研究所を設け、研究員を20人ほど置いてエアゾールなどの研究を行っている。

「カセットボンベの今後の可能性は、

本100円程度で、一家4人で鍋料理をするなら3回くらいは使用できる。不況でも受け入れられやすい商材だと思う。

## 取り扱い商品増やしサービス向上目指す

この先、こうした研究成果が当社にも良い影響を与えるかもしれない」

「来年以降は取り扱い商材を増やしていくとともに食品売り場に鍋の食材と一緒に陳列してもらえば、売上本数は伸びると思う。反対に、家電コーナーに置かれてしまうと、動かなくなってしまう」

「大きな変化はなく、社員ごと移ってきたから4月1日からすぐに活動できた。親会社の元晶製罐は、韓国ソウル近郊に

は、ボンベもライターも品質管理の徹底や、アフターサービスに力を入れていく」